

認知症患者本人の気持ち

認知症の方にも心があります

「認知症になると、何もわからなくなってしまう」と思っているかもしれませんか？

認知症を発症した方も、気持ちはしっかりと働いています。

これまでと同じようにできない自分の状態にもどかしさを感じ、悲しみ、周囲の心無い一言に怒り、傷つきます。

認知症の方にも感情があり、「こころ」があるのです。その「こころ」について考えてみましょう。

認知症の方の気持ち

- 現在の状態が理解できなかったり、何をやってたかわからなくなったりして、不安な気持ちを抱えています。
- 自分がおかしくなっていると感じ、だれよりも苦しみ、悩み、悲しんでいます。
- 自分の周りに起こっている状況が理解できず、困惑して混乱状態になることがあります。急が

されて自分のペースが乱れたり、失敗を注意されて、ますます混乱することもあります。

● 知っている場所に行こうとしても、認知障害のためにどのような行か判断できません。なんとか解決しようとパニック状態になって、さらに歩きまわります。

私たちにできること

認知症の方の不安な気持ちを感じとって、さりげなく手助けをすることが大切です。

安心感を与える環境や、不安を取り除く対応ができれば、認知症の人は落ち着いてきて、その人らしい姿をみせてくれます。



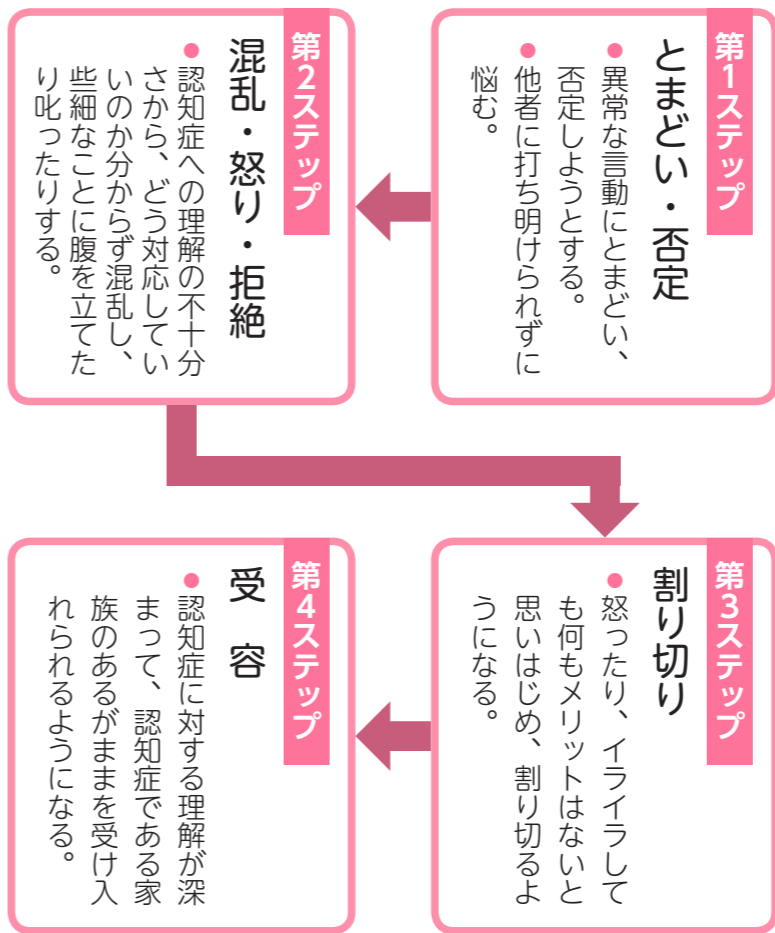
認知症介護者の気持ち

介護者が経験する4つのステップ

認知症の人を介護する家族などには、大きな負担がかかります。家族を応援することによって、その負担が少しでも軽くなれば、認知症の人にもよい影響を与えます。

実際に介護する家族は、次の4つのステップを行きつ戻りつしながら、一生懸命認知症の人をサポートしています。

このステップを手がかりに家族の気持ちの理解に努め、適切な支援につなげましょう。



町をあげてサポート事業を展開

中山町では、次のようなサポート事業を展開し、地域で支え合う体制づくりを積極的に進めています。

認知症サポーター養成講座

町では、「認知症サポーター養成講座」を随時開催しています。

これは、認知症の人に対する誤解や偏見を解消し、認知症の人や家族が安心して暮らせるまちづくりへの理解と支援の意識を持っていただくことを目的としています。

現在、町では354人の方が受



8月24日に開催された町民の方向けの認知症サポーター養成講座の様子。このほか、企業や団体向けの出前講座も行っています。

講し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として活躍しています。

講習受講者には、認知症サポーターの証「オレンジリング」が配布されます。



役場では、窓口対応等に生かすため佐藤町長をはじめ全職員が認知症サポーター養成講座を受講しています。

徘徊高齢者支援事業

高齢者が行方不明になった場合、町、町地域包括支援センター、山形警察署が連携し、高齢者を早期に見つけ、保護し、安全を確保する事業です。

この事業を利用するためには、事前の登録が必要となります。

詳しくは健康福祉課、町地域包括支援センター、ケアマネジャーにご相談ください。

脳力アップ教室

町内にお住まいの65歳以上の方（要支援、要介護認定を受けている方、医師から運動制限を受けている方は除く）を対象に、脳トレや軽体操を通じて脳力アップを図る教室です。合わせて、認知症予防に関する講話や認知症についての正しい知識を学びます。

開催時期等は、随時お知らせ版、町公式ホームページにてお知らせします。

認知症カフェ

認知症の方とご家族のほか、認知症に関心のある方ならどなたでも参加することができ、認知症のことについて気軽に話し合える場です。お茶やコーヒーを飲みながら、日頃感じていることを話し合えます。

開催時期等は、随時お知らせ版、町公式ホームページにてお知らせしています。



8月31日に開催された認知症カフェの様子。この日は音楽療法の先生をお招きし、懐かしい曲とともにカフェを楽しみました。